



剣心一如 — 正しい行いが、正しい心を育てる

生徒指導主任 岸 駿平

一年間というものは本当にあっという間に終わりを迎えますね。これほど目まぐるしく一年が過ぎていったのは、私にとって初めてかもしれません。

この一年間、生徒指導主任という立場でみなさんと接するなかで、一貫して伝えていたことは『一人の人間として成長する』ことです。その学期ごとにみなさんに頑張ってもらいたいこと、気をつけてほしいことといった、私の想いを一言でまとめるならこの言葉だと思い、みなさんの前で話すたびに伝えてきました。

今ここで、自分自身が『一人の人間として成長する』ことができたかを振り返ってみてください。何かできるようになったことはありますか？変わったことはありますか？

特に強く伝えたことは「地域の一員の意識をもつ」ことです。相武台中学校は、相武台という地域の理解を得て成り立っています。地域の方々が日頃から見守り、理解してくださっているからこそ、不自由なく学校生活を送ることができています。これは直接感じることはなかったとしても、理解し、感謝しなければならないことです。これからも決して忘れないでください。

また、学校と地域をはじめ、友人同士などの人間関係において、互いを理解することには「思いやり」が必要です。相手のことを考えて行動したり、尊重することで、良好な関係を築くことができます。そのためには一人ひとりの「心」の成長が大切です。「心」を成長させるには、日頃の取り組みが大切だと私は考えます。

剣道には『剣心一如』という言葉があります。

剣心一如(けんしんいちによ)

正しい修行(行い)をすれば、正しい心を成長させる結果になる、という意味。

逆を返せば、正しい修行(行い)でなければ、心は成長できない。

心が乱れていては、正しい修行(行い)ができない。

気持ちの良いあいさつを心がけることや、ルール・マナーを守った行動をすることなど、シンプルでも大切なことを行える人は、自然と「心」が成長し、「思いやり」をもつこともできると思います。このような内面的な成長を、今後より一層意識して過ごしてほしいと思います。

「成長」とは、育って成熟すること、という意味です。また、意味にある「育つ」とは、生まれてから一人前になるまでの過程を進むこと、という意味です。人間は何かを成し遂げるための過程で、様々な取り組みに対して努力し、その結果を望むものだと私は考えています。特に中学生のみなさんは、日々の生活において学習や部活動、クラブ活動など様々な取り組みの中で、それぞれの目標に向かって努力をしていると思います。その努力で成長はできましたか？

『一人の人間として成長する』ことは、中学校生活だけの話ではなく、卒業後にもつながります。将来の自分をつくるための大切なスキルや「心」を中学校生活の中で身につけることで、『一人の人間として成長する』ことを目指し続けることができる人になってほしいと思います。これからも期待しています。

世界と日本をつなぐ架け橋として

～2月25日米国大使館書記官をお招きしてキャリア講演会を開催～

この度本校では、米国大使館 政治部 安全保障政策課書記官のアミット・チャンダさんをお招きし、キャリア講演会を開催いたしました。外交の最前線で活躍されるプロフェッショナルのお話を直接伺うという、極めて貴重な学びの機会となりました。



講演では、まず大使館における「書記官」としての役割や、日米の安全保障を支える仕事の重要性についてお話いただきました。国と国の信頼関係を築く仕事の「やりがい」だけでなく、多様な文化の中で「誠実さ」や「相手を理解しようとする姿勢」を大切にされているというお話は、生徒たちの心に深く響いたようです。

また、「学校での学びが将来どうつながるか」というテーマでは、語学力のみならず、歴史や文化、論理的な思考力がいかに現場で活かされているかをご自身の経験を交えて語っていただきました。今の学習が、単なる試験のためではなく「未来の自分を支える道具」になることを実感できた一瞬でした。

後半の質疑応答では、生徒から「外国語の効果的な学び方を教えてください。」「一日のルーティーンを教えてください。」といった質問が投げかけられ、一つひとつに「日本の次世代を担う子どもたちへの期待」を込めて丁寧に答えていただきました。

「広い視野を持ち、失敗を恐れず挑戦してほしい」というチャンダさんの熱いメッセージは、卒業や進級を控えた生徒たちにとって、何よりのエンパワーメントとなりました。

3年生未来へ羽ばたく日へ

～卒業に向けた「特別日課」が始まりました～

三寒四温の空の下、少しずつ和らぐ寒さが、別れの日が近いことを感じさせます。入試という大きな山を乗り越えた3年生。彼らは20日から『特別日課』に入り、卒業式という最高の舞台に向けて、本格的な練習を開始しました。

《体育館の「静寂」 感謝を形にする所作》

広い体育館では、式の流れや「作法」の練習が行われています。証書を受け取る際の手の動き、一糸乱れぬ起立のタイミング、そして背筋を伸ばし真っすぐ前を見て座る姿勢。一つひとつの所作を確認する生徒たちの表情は、真剣そのものです。

卒業証書は、単なる紙の一枚ではなく、義務教育九年間の努力の証です。それを受け取る重みを噛みしめるように、静まり返った体育館には、緊張感の中にも3年生らしい穏やかでも凜とした空気が流れています。

《教室の「歌声」 仲間と紡ぐ最後の一節》

一方、3年生の教室からは遙か歌声が少し離れた職員室まで聞こえてきます。現在、合唱練習は慣れ親しんだ各教室を中心に行われています。

共に笑い、時には切磋琢磨した仲間と、教室という「日常」の空間で声を合わせる。その歌声には、三年間で積み重ねてきた思い出が、一音一音に込められているようです。教室で磨かれた個々、そしてパートの歌声が、やがて体育館という大きな舞台上で一つに重なり、大きな感動となって響き渡る日が今から待ち遠しく感じられます。

《保護者の皆様へ》

三月十一日、お子様はこの学び舎から新しい世界へと羽ばたいていきます。

体育館で見せる「大人びた後ろ姿」と、教室で見せる「仲間との温かい調和」。そのどちらもが、この三年間で手に入れた等身大の成長の証です。当日、立派に成長した子どもたちの晴れ姿を、ぜひ温かい拍手で見守っていただければ幸いです。